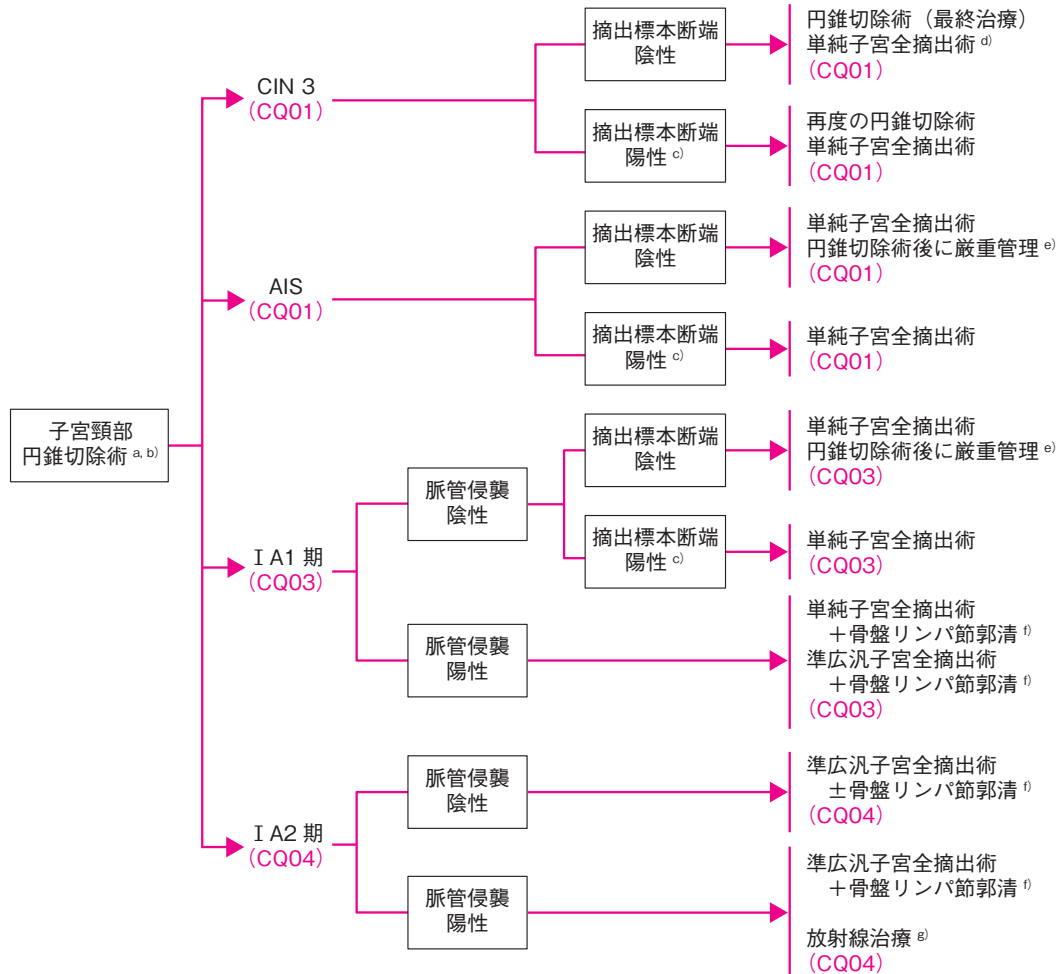


フローチャート 1

子宮頸部前癌病変(CIN 3・AIS)ならびに I A 期の治療

(子宮頸部円錐切除術による診断に基づいた治療の流れ)



注

- 診断もしくは診断と治療を目的としたものとする。頸管内搔爬の陽性例は摘出標本断端陽性と同样に取り扱う。
- フローチャートは、円錐切除術の摘出標本による確定した診断を基本とするが、高齢者で子宮頸部の萎縮が強い場合、円錐切除術を省略することも考慮される。ただし、術前に、細胞診、コルポスコピー、組織診を十分に検討し、推定病変に見合った子宮摘出を行う必要がある。
- 摘出標本断端陽性は、CIN 3(扁平上皮系病変)あるいはAIS(腺系病変)以上の病変とする。
- 妊孕性温存を望まない場合には、単純子宮全摘出術も考慮される。
- 妊孕性温存を強く望む場合に考慮される。摘出標本断端陰性でも遺残病巣が発見されるとの報告があり、子宮温存には慎重を要する。
- 円錐切除標本の病理組織学的所見、すなわち浸潤の程度、脈管侵襲の有無などにより術式の個別化を行う。
- 高齢者や合併症のために手術療法が困難な場合、放射線治療も選択肢となる。

フローチャート 2

I B 期・II 期の治療（扁平上皮癌と腺癌を含む）

I B 期 (CQ06, 07, 15)

I B 1 期

広汎子宮全摘出術
(CQ06, 15)
放射線治療
(CQ06)
同時化学放射線療法
(CQ015)

I B 2 期

広汎子宮全摘出術
(CQ07, 15)
同時化学放射線療法
(CQ07, 08, 15)

II 期 (CQ06~08, 15)

II A 1 期

広汎子宮全摘出術
(CQ06, 15)
放射線治療
(CQ06)
同時化学放射線療法
(CQ15)

II A 2 期

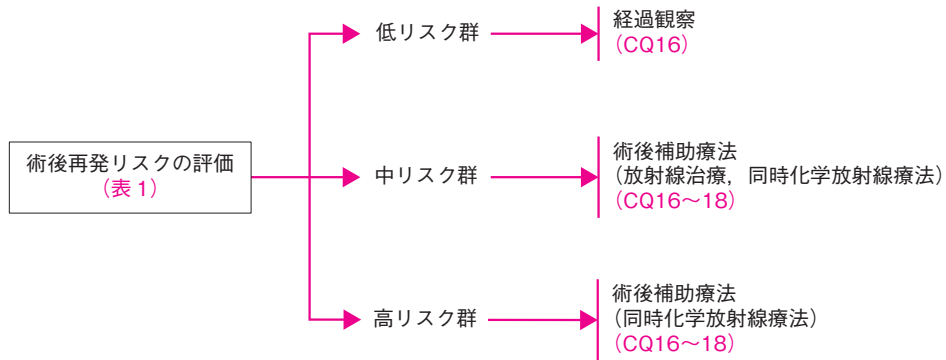
広汎子宮全摘出術
(CQ07, 08, 15)
同時化学放射線療法
(CQ07, 08, 15)

II B 期

I B・II 期の
術後補助療法の項を参照
(CQ16~18)

フローチャート3

IB期・II期の術後補助療法（扁平上皮癌と腺癌を含む）



注) 術後再発リスク評価の基準に関して様々な報告や議論があり, 個々の例についての十分な検討が必要である。

表1 子宮頸癌の術後再発リスク分類

低リスク群：以下のすべての項目を満たすもの

- ①小さな頸部腫瘍
- ②骨盤リンパ節転移陰性
- ③子宮傍(結合)組織浸潤陰性
- ④浅い頸部間質浸潤
- ⑤脈管侵襲陰性

中リスク群：骨盤リンパ節転移陰性および子宮傍(結合)組織浸潤陰性で、以下のいずれかの項目を満たすもの

- ①大きな頸部腫瘍
- ②深い頸部間質浸潤
- ③脈管侵襲陽性

高リスク群：以下のいずれかの項目を満たすもの

- ①骨盤リンパ節転移陽性
- ②子宮傍(結合)組織浸潤陽性

注) 頸部腫瘍の大きさ、頸部間質浸潤の深さ、骨盤リンパ節転移陽性時の転移リンパ節の個数・部位、さらに再発リスク因子の個数については様々なリスク分類の基準・報告があり、頸部腫瘍の大きさ、具体的な浸潤の深さを規定してリスク分類を行うことは適切でないと判断し、「浅い・深い」「大きい・小さい」のような表現にとどめた。頸部腫瘍の大きさに関しては臨床進行期分類も4 cmを採用していることから、これを1つの目安にしている報告が多い。脈管侵襲に関しては論議が分かれている。

[参考文献1より引用、一部改変]

付記：米国 NCCN の子宮頸癌に関するガイドラインには「手術断端陽性」は術後再発リスク因子の中の一つとされているが、以下のような理由から、本項で扱う術後再発リスク因子から除外することとした。①『子宮頸癌取扱い規約 第3版』(2012年)では、不完全手術例で癌の残存が明らかな症例の治療は術後照射例として扱わず、「残存例の放射線治療」として扱うと規定されている。したがって、断端陽性を術後再発リスク因子に含め術後補助療法の対象とすると、取扱い規約との整合性がとれず現場に無用な混乱を招く恐れがあると考えられる。②日米欧での断端陽性という用語自体の意味合いに相違がある。すなわち本邦で断端陽性という場合、CIN 3以上の病変の遺残を意味することが多いのに対し、欧米では浸潤性病変の遺残を意味する場合が多いと推測される。そのため、欧米のデータをそのまま引用して本項のエビデンスとすることは不適切と考えられる。

【参考文献】

- 1) Miller C, Elkas JC. Cervical and vaginal cancer. In: Berek & Novak's Gynecology (Berek JS. ed), 15th ed. Lippincott Williams & Wilkins, Philadelphia, 2012, pp1304-49 (レベルⅢ)
- 2) 日本産科婦人科学会, 日本病理学会, 日本医学放射線学会, 日本放射線腫瘍学会 編. 子宮頸癌取扱い規約, 第3版. 金原出版, 東京, 2012 (規約)

フローチャート4

Ⅲ期・Ⅳ期の治療（扁平上皮癌と腺癌を含む）

Ⅲ期 (CQ19~22, 24, 25)

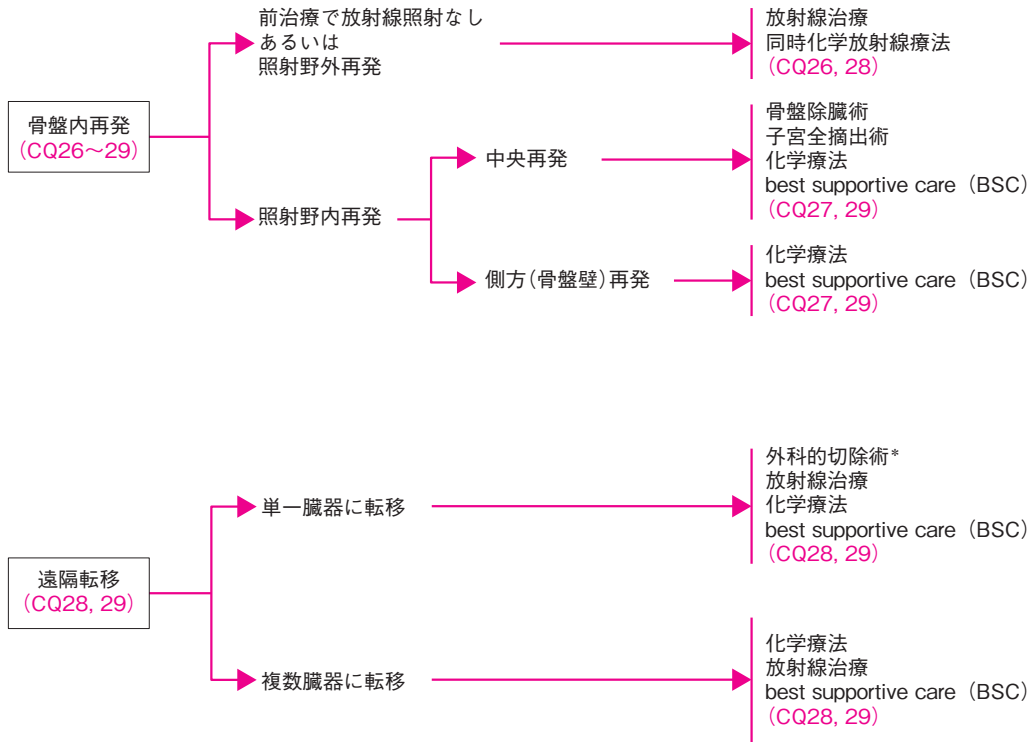


Ⅳ期



フローチャート 5

再発癌の治療（扁平上皮癌と腺癌を含む）



*転移臓器と病巣数による (CQ28 参照)